

# クラフト農業レポート

## No.1 これなあ〜んだ？

**Q** 今年秋、笠間地区の田んぼに出現した白い物体はなんでしょう？



**A** 飼料稲（稲発酵飼料）です。1つ約160kgもあります。

近年、地球環境に配慮したバイオ燃料製造や原油高騰で増大した穀物需要の影響を受け、飼料価格が上がり、圧迫された畜産農家の経営改善のため、穀物市況にあまり影響を受けることなく、良質な飼料を低価格で安定的に確保しようと考えられたものです。

市でも、早急に対応するため、土地改良区を対象に水稻栽培技術を活用し、湿田でも栽培できる飼料稲の生産を推進しました。事業実施に向けた準備が整い、今年度は、福原・上稲田土地改良区（第1工区）の「上稲田営農組合」が10.1ヘクタール、滝川土地改良区の「滝川地区営農組合」が6.3ヘクタール、本戸土地改良区が3.7ヘクタールの生産に取り組んでいます。

今回生産された飼料稲は市内の畜産農家（酪農17軒、肉用牛3軒）で、牛のえさになります。

市では、飼料稲生産による「耕畜連携」を強化することで、食料自給率の向上や米の生産数量調整に役立つばかりではなく、持続可能な水田農業所得の確保や畜産経営基盤の確立など、地域農業の振興につなげたいと考えています。

平成21年度、笠間市は農業施策を重点的に実施しています。

問合せ 農政課（内線526）

## 上稲田営農組合の作業風景



①食用稲よりも背丈が高く、穂が少ない飼料稲を刈り取ると、円柱形になって出てきます。



②円柱形になった稲を、ビニールで何重（8重）にもラッピングします。



③番号を付け、管理します。



④2～3か月、ビニールの中で稲が発酵して飼料になるのを待ちます。



飼料稲と秋の空